

令和 7 年 度 年 報

大 津 の 療 育

やまびこ

＜療育の概要・資料編＞

(令和 6 年 度 版)

大津市立やまびここども療育センター やまびこ園

大津市立北部こども療育センター わくわく教室

大津市立東部こども療育センター のびのび教室

は じ め に

大津市では、大津市総合計画第3期実行計画（2025～2028年）において、特に力を入れる取組を4つの重点プロジェクトとして設定し、その重点プロジェクトの1番目に「就学前教育・保育の魅力向上プロジェクト」を掲げ、「一人一人の子どもに寄り添った発達支援体制の整備」「困難な状況にある子どもや保護者への早期支援」を行うものとしています。

本市の発達支援体制は、約50年前に始まった「大津方式」の理念を大切にしながら、その仕組みを時代のニーズに合わせて発展させ、現在に至っています。一方で、保護者の就労意欲の高まりや、核家族化が進む中で、支援が十分に行き届かないなどの課題が顕在化してきており、現行の支援制度の改善が必要となってきています。「障害の早期発見・早期対応」の理念を引き継ぎながらも、「保護者が療育と保育を選択できる環境」のもとで発達支援を行っていくことを目指し、大津方式のアップデートを進めています。

昨年度「改正児童福祉法」が施行され、児童発達支援センターに求められる役割が広がっている中で、東部こども療育センターにおいては、昨年度から「相談支援事業所」を設置し、児童発達支援センターとしての業務をスタートしました。大津市の3か所児童発達支援センターが、それぞれの地域の相談窓口として機能し、「こどもをまんなか」に、「家族全体の支援、隙間や切れ目をつくらない子育て支援」を行うことを目指していきます。

これまで受け継がれてきた「大津方式」のバトンを今後もつないでいけるよう、今、目の前の子どもたち、そして保護者の方のためにできる最善の支援を提供していくと共に、未来の子どもたち、そして保護者の方につながる療育の場となるよう充実を図ります。

さてここに、令和6年度の大津市の療育の概要と資料をまとめました。（令和7年度年報療育の概要・資料編）。

是非とも多くの関係機関の方にご高覧いただきますようお願い申し上げます。

令和7年10月
北部こども療育センター わくわく教室
所長 伊賀 美佐保

— 目 次 —

はじめに

第 1 部 『大津市の療育の概要』

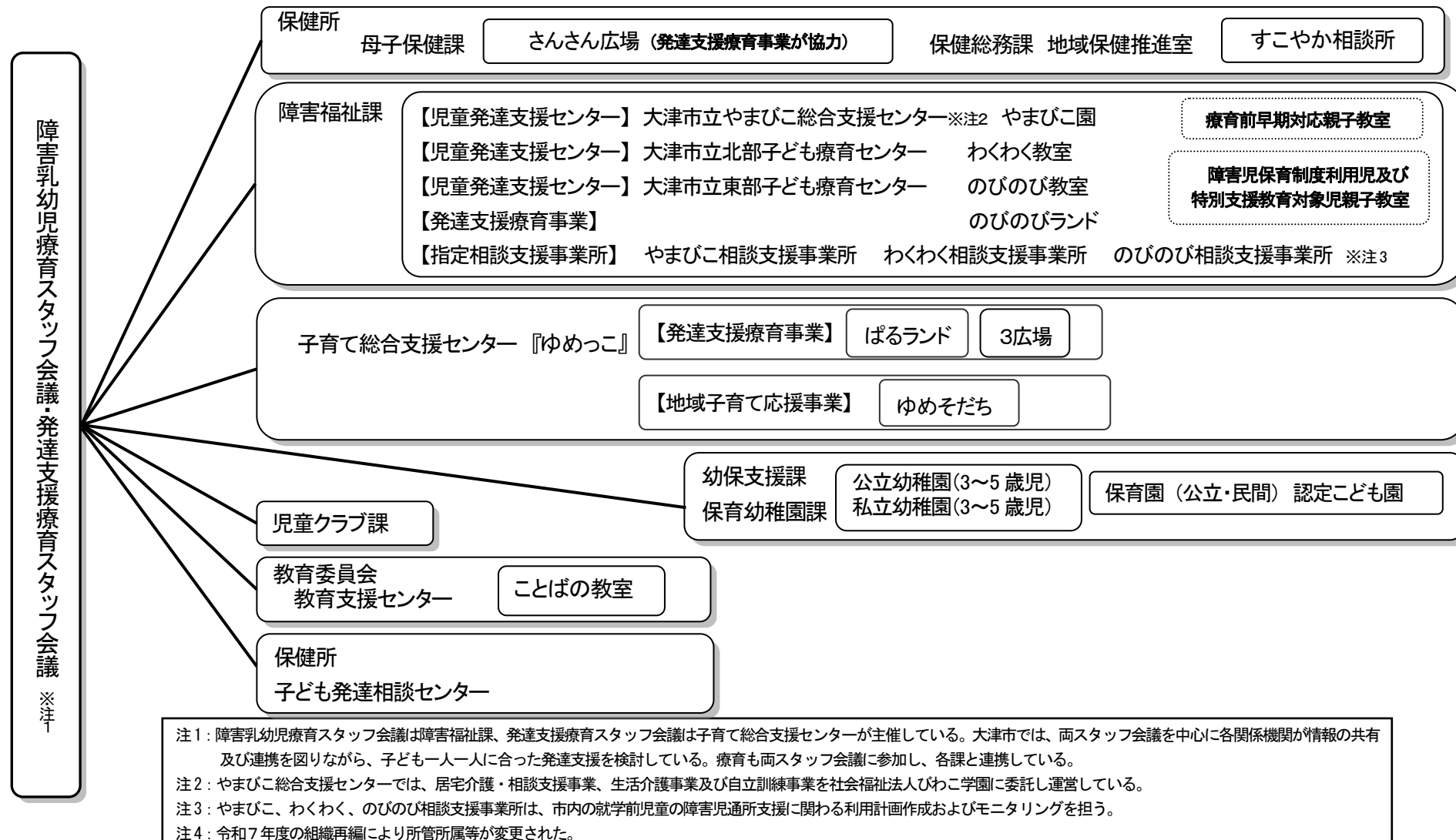
1	組織と役割	1
2	沿 革	5
3	令和 6 年度の事業概要	7
4	令和 6 年度在籍児の状況	9
	(1) やまびこ園	
	(2) わくわく教室	
	(3) のびのび教室	
5	令和 6 年度 3 療育のまとめと課題 【共通の取り組み】	11
	保育所等訪問支援事業	
	療育前早期対応親子教室	
	療育体制の整備	
	療育実践報告・交流会の実施	
6	進路指導	14
7	相談支援	16

第 2 部 『資 料』

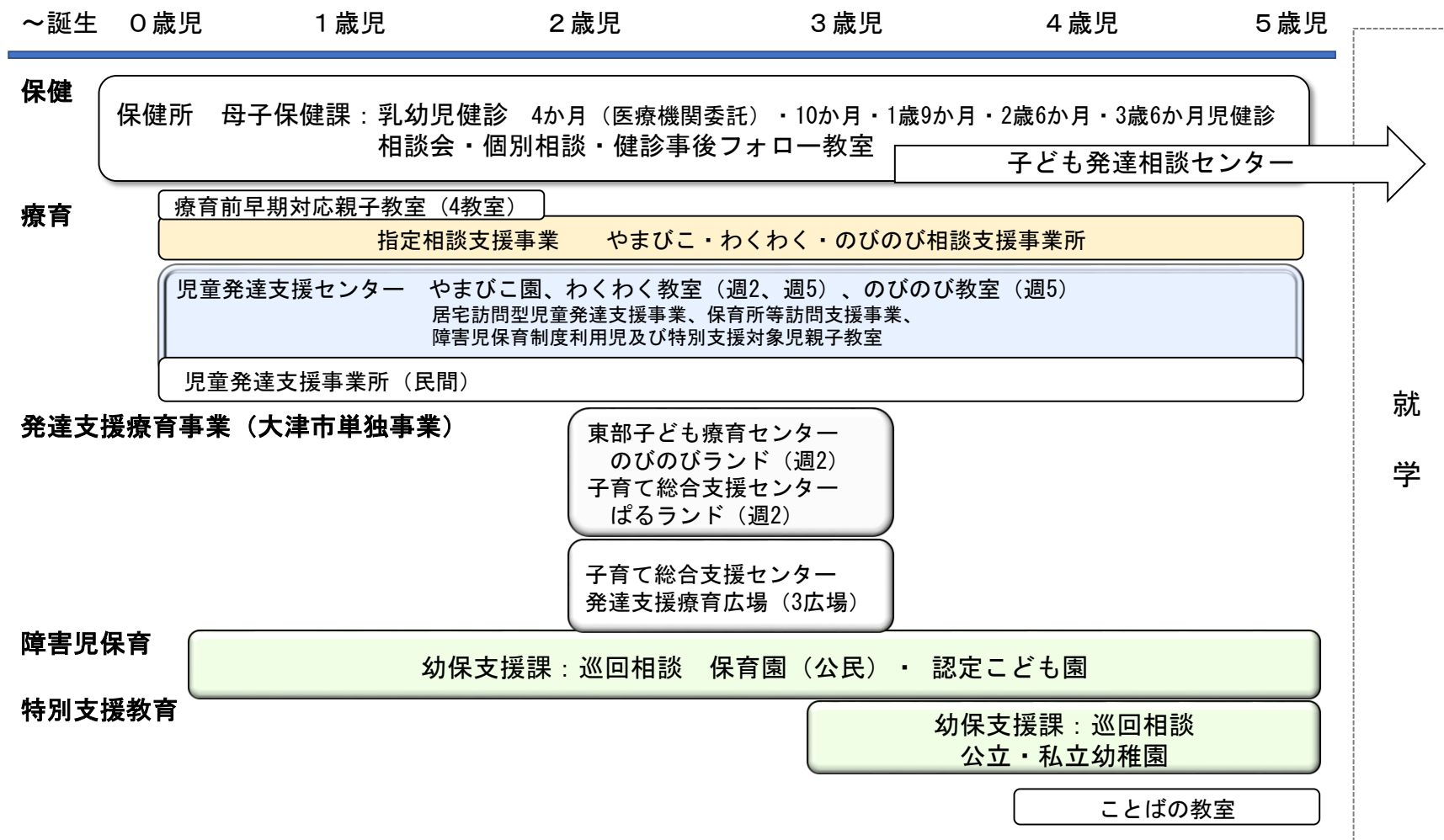
1	年度別・年齢別在籍児推移	17
2	入所時年齢別推移	18
3	進路状況推移	19

1 組織と役割（令和6年度の体制 ※注4）

『療育と関係機関・組織との連携』

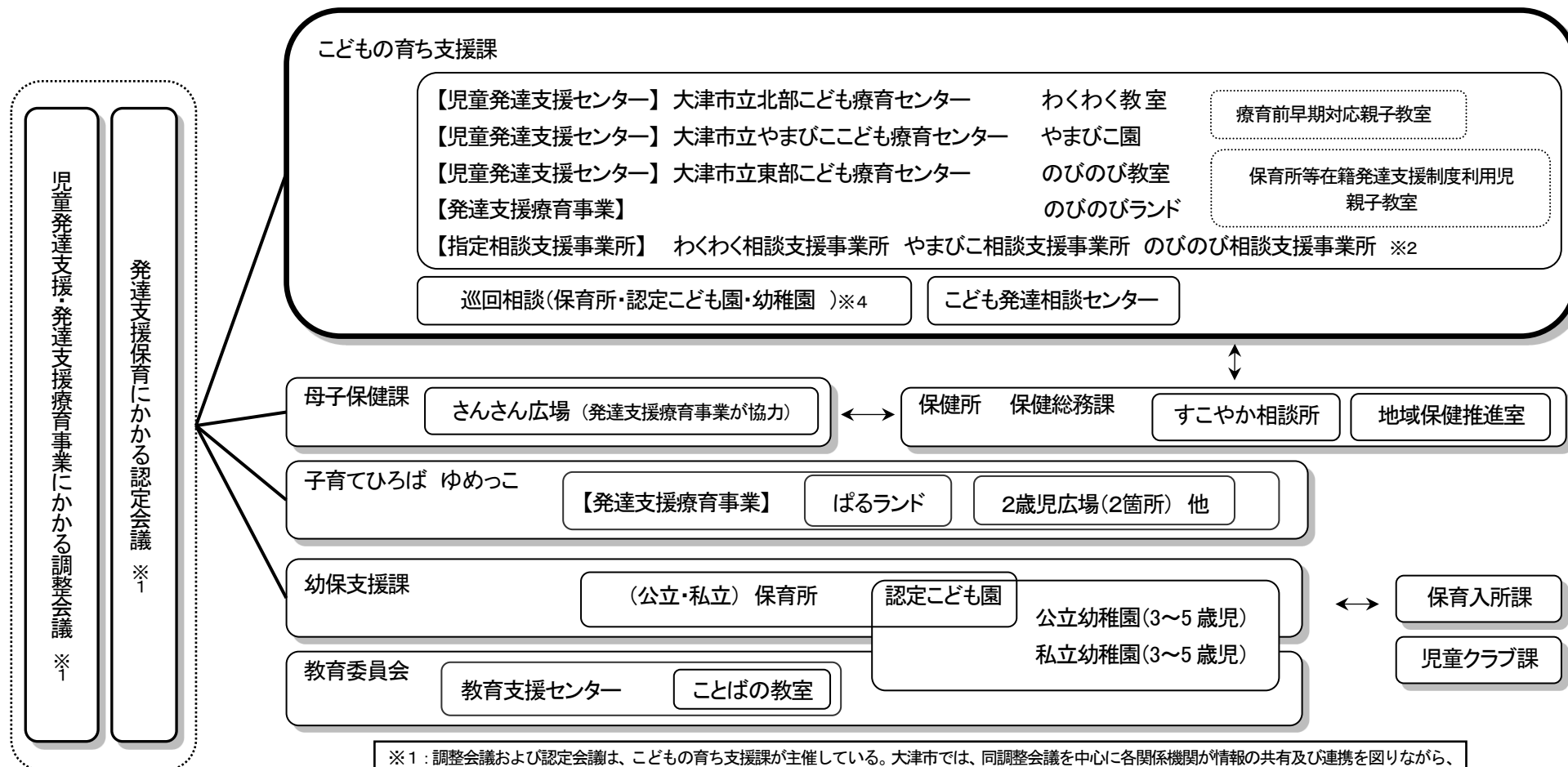


『乳幼児期の発達支援システム』



組織と役割（令和7年度の体制 ※3）

『療育と関係機関・組織との連携』



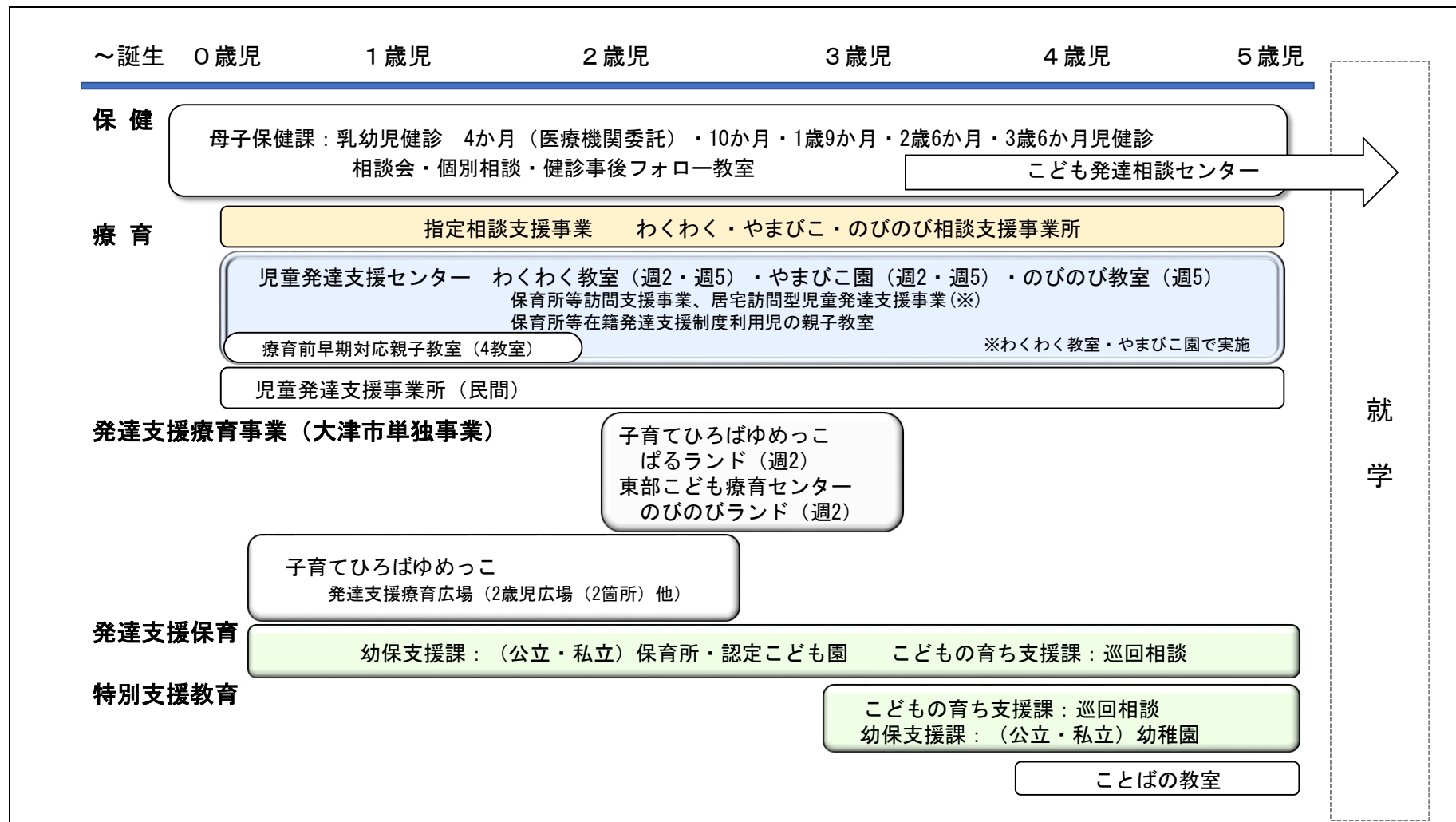
※1：調整会議および認定会議は、こどもの育ち支援課が主催している。大津市では、同調整会議を中心に各関係機関が情報の共有及び連携を図りながら、子ども一人一人に合った発達支援を検討している。各療育センター（児童発達支援事業・相談支援事業）も会議に加わり各課と連携を図っている。

※2：各療育センターの相談支援事業所は、市内の就学前児童の障害児通所支援等に関わる計画相談を担っている。

※3：令和7年度の組織・機構改革により所管所属等が変更された。

※4：発達支援療育制度利用児および特別支援教育対象児や在籍園を対象に個別の発達相談や保育相談等を実施している。

『乳幼児期の発達支援システム』



2 沿革

年 度	療 育 関 係	年 度	関 連 事 項
		1948	児童福祉法施行
		1966	母子保健法施行
		1968	大津市障害児父母の会からの請願を大津市が採択する(療育と健診の充実)
		1970	心身障害者対策基本法施行
		1971	大津市民健康センターの設立
1973	発達相談員・保健師・ボランティアによる「母親教室」が開始(健康センターにて月2回)	1973	「保育元年」と称される障害児保育がスタート
1974	大津市立心身障害者福祉センター(現 障害者福祉センター)の開設(におの浜)	1974	乳幼児健診大津・1974年方式 (「受診もれ、発見もれ、対応もれ」をなくす)
1975	「親子教室」がスタート (心身障害者福祉センターにて、保育士1名)	1975	障害乳幼児対策・大津1975年方式 (乳幼児健診を中心とする早期発見、早期療育、保育園・幼稚園の保育・教育)
1977	「やまびこ教室」の開設(心身障害児通園事業)		
1981	「やまびこ園」の開設(精神薄弱児通園施設 やまびこ園週3回、やまびこ教室週1回)	1981	国際障害者年
		1982	大津市が「障害乳幼児対策を考えるシンポジウム」開催(「3つの鍵」「3つの留意事項」)の確認
1985	訪問療育の開始(週1回)	1989	大津市総合保健センターの開設
1993	運営を大津市社会福祉事業団へ移管	1993	心身障害者対策基本法が障害者基本法へ改正
		1994	子どもの権利条約批准
		1997	母子保健法の改正(地域保健法施行) 大津市障害者福祉計画(おおつ障害者プラン)策定
2000	「やまびこ園・教室」新築移転(馬場) 運営を大津市に再移管 園は毎日通園になり定員10名増 教室は週1回から週2回へ	2000	大津市立やまびこ総合支援センター開設
		2002	志賀町立子ども療育センター「わくわく教室」開設 大津市障害者福祉計画改定
		2003	支援費制度がスタート
		2004	「選べる福祉サービス滋賀特区」の開始(10月)
		2005	発達障害者支援法施行(4月)
2006	志賀町との合併(3月)により、 子ども療育センター「わくわく教室」が大津市立北部子ども療育センターとなる(下阪本学区以北が対象エリアに) 「わくわく教室」改修工事完了	2006	障害者自立支援法本格施行(10月) 総合保健センター移転 子育て総合支援センター「ゆめっこ」オープン 発達支援療育事業「ぱるランド」開設(10月)
		2007	大津市障害者福祉計画(おおつ障害者プラン)改定(以降、3年毎に策定)
2009	「わくわく教室」増設工事		
2010	「わくわく教室」定員5名増	2010	障害者自立支援法改正案成立
2011	東部子ども療育センター「のびのび教室」開設 (東部地域及び田上・大石学区が対象エリアに) 児童デイサービス事業20名 発達支援療育事業20名		
2012	法改正に伴い、「やまびこ園・教室」は児童発達支援センターに、「わくわく教室」「のびのび教室」は児童発達支援事業となる	2012	障害者総合支援法成立 児童福祉法改正に伴い障害児支援の改変実施 障害者虐待防止法施行
2013	「のびのび教室」の発達支援療育事業にて3歳	2013	障害者総合支援法施行

2014	児親子教室開始(3年保育開始と共に終了) 療育前早期対応親子教室が3療育に移管 計画相談・モニタリングの実施	2014	障害者権利条約批准 やまびこ相談支援事業所開設
2021	「わくわく教室」が児童発達支援センターとなる	2015	子ども発達相談センター開設
2023	「のびのび教室」増設工事	2016	障害者差別解消法施行
2024	「のびのび教室」が児童発達支援センターとなる 発達支援制度利用児親子教室「ふたば」を3療育で実施	2018	児童福祉法改正
		2021	わくわく相談支援事業所開設 医療的ケア児支援法施行
		2023	子ども基本法施行、子ども家庭庁設置
		2024	のびのび相談支援事業所開設

障害の有無に関わらず、全ての子どもが発達する権利を持ち、それを実現していく責務が社会にあるという発達保障の理念に基づき、大津市の障害乳幼児対策は進められてきた。

その開始は、1973年から75年にかけての「保育園・幼稚園における障害児保育の開始」、「乳幼児健診のシステム確立」、「障害のある子どもとその保護者を対象とした『親子教室』の開始」である。「乳幼児健診・大津方式(1974年方式)」「障害乳幼児対策・大津方式(1975年方式)」として整備され、「乳幼児健診での障害の早期発見・早期対応」「療育教室での早期療育・保護者支援活動」を経て、「保育園・幼稚園での保育・教育につなぐ」という3つの柱を基本にした発達支援システムが確立された。療育分野については、大津方式の策定後すぐに、やまびこ教室(1977年)及びやまびこ園(1981年)を開設し、親子への支援を充実させてきた。2006年には、旧志賀町との市町村合併により、北部子ども療育センターわくわく教室が開設され、下阪本学区以北の発達支援の拠点として整備された。わくわく教室の開設により、より身近な地域で療育を受けることは、親子にとっての安心につながることが示唆され、当時、乳幼児人口が市内で最も多く、療育の必要性がある子どもも多く暮らしていた東部地域にも療育の場を整備することを関係課と共に検討し、2011年に東部地域及び田上・大石学区を対象とした東部子ども療育センターののびのび教室の開設に至った。

一方で、知的な遅れは大きくないが、人との関係を作ったり、自分の行動をコントロールしたりするなど社会生活を送る上での困難を持っている、また、将来学習上の困難を抱える可能性がある子どもに対しては、乳幼児健診で発見されるものの療育的な支援ができる場がなく、健診後のフォロー教室での支援でとどまっていた。2005年に発達障害者支援法が施行され、このような子ども達も「発達支援を求めている子ども(要発達支援児)」として、発達支援や育児支援を行う必要性が関係課で議論され、2006年に子育て総合支援センターを開設、同センターにて「発達支援療育事業」が開始された。さらに、東部地域にその必要性が高い子どもが多かったことから、東部子ども療育センターでも開始された。

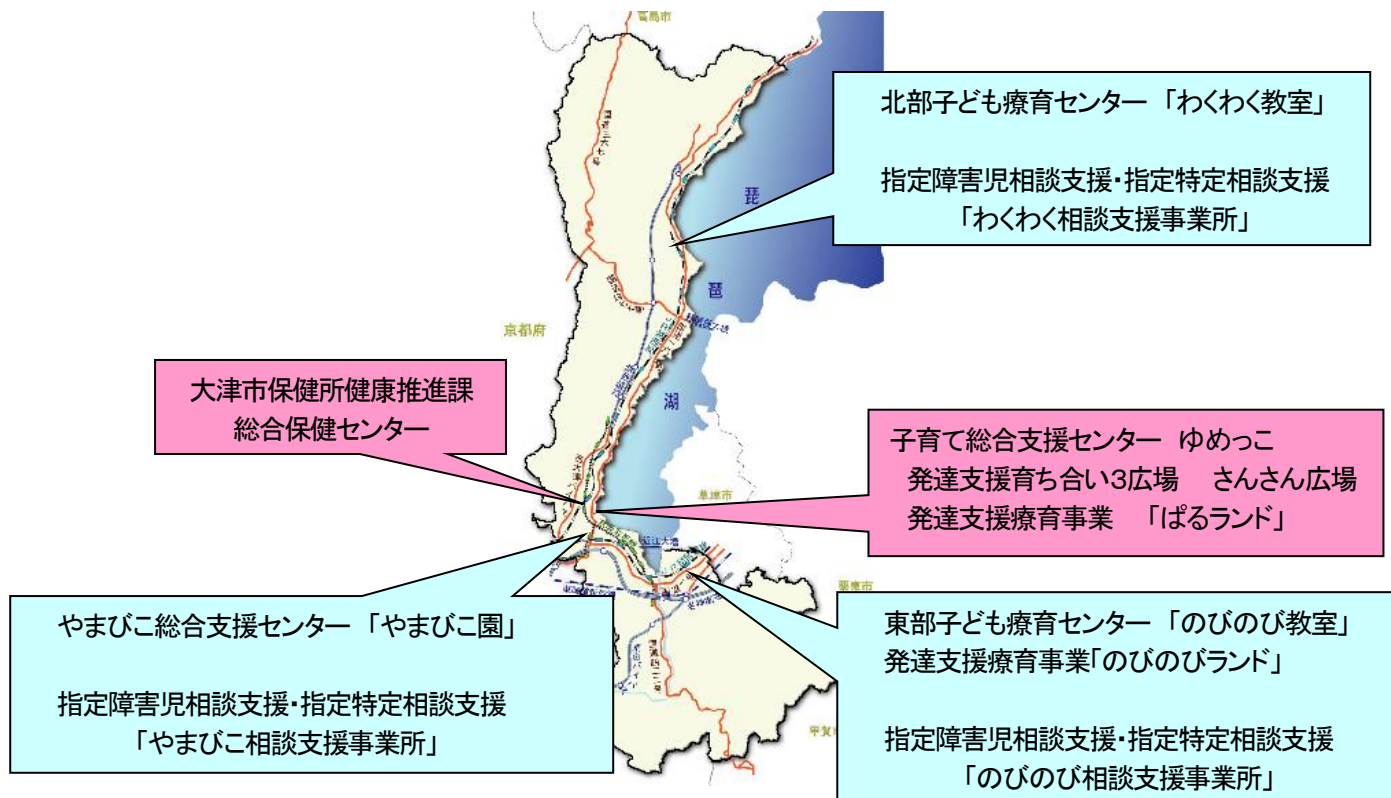
近年は、児童分野でも相談支援専門員による相談支援が必要となり、やまびこ相談支援事業所(2014年)及びわくわく相談支援事業所(2021年)、のびのび相談支援事業所(2024年)を開設し、就学前の障害福祉サービスの利用について、保護者の相談に応じている。療育施設を利用する際に保護者の思いを整理し、適切な支援につながるよう、各療育教室と密な連携を図っている。また、2024年に長年の課題であった東部地域での肢体不自由児や医療的ケアを必要とする児の療育が実施できる環境が整えられた。大津市全体では保育所入所時期の低年齢化が進み、療育を経過せずに保育所で発達支援保育制度を利用している子どもも多く、保護者の仲間づくりや保護者を対象とした学習会などの機会が乏しく、保護者支援を充実させることが課題であった。こういった経過を受け、2024年に療育が地域支援の一つとして親子で遊べる「ふたば」事業を開始した。今後も関係機関と連携し保護者支援を充実させることが課題である。

大津方式が始まって50年が過ぎたが、療育は、子ども達が人との関係を通して自分づくりをすることを大切にする発達支援と、発達上の課題や困難について保護者と一緒に考える子育て支援の役割を担う場として、その充実を図っている。児童発達支援センターの機能強化、就労支援等、新たな課題があるが、子どもの発達する権利を保障するという当初の理念を大切にしながら、現代の子育て世帯のライフスタイルに合った発達支援を関係所属が連携して実践していくことが求められている。

3 令和6年度の事業概要

施設名	やまびこ総合支援センター やまびこ園	北部子ども療育センター わくわく教室	東部子ども療育センター のびのび教室
所在地	大津市馬場二丁目13番50号	大津市和邇中176番地の1	大津市萱野浦1番11号
事業形態	児童発達支援センター	児童発達支援センター	児童発達支援センター 40名(21名) 発達支援療育事業 20名(20名)
定員 (3月末在籍児数)	40名(48名)	20名(34名)	
目的	発達上の課題や困難について保護者と共に考え、早期に療育を進めることによって子どもの健やかな成長発達を援助する。		
入園時期と 在園期間	入園の時期は主に4月。その後は要望があれば対応している。多くは1年通園し、その後こども園や保育園、幼稚園へ進む。各園との並行通園は行っていない。子どもの状況に応じて、就学まで2年以上在園する子どももいる。		
登園回数	週5日(5クラス) 週2～4日(1クラス) 居宅訪問型児童発達支援事業	週5日(1クラス) 週5・2・1日(1クラス) 居宅訪問型児童発達支援事業 週2日(2クラス)	週5日(2クラス) 週5・3・2日(1クラス) 週2日(2クラス)
親子登園日	週5日クラスは週2日 週2～4日クラスは週1～2日	週5日クラスは週2日 週5・2・1日クラスは週1～2日 週2日クラスは週1日	週5日クラスは週2日 週5・3・2日クラスは週1～2日 週2日クラスは週1日
クラス数	7クラス	4クラス	5クラス
保育時間	10:00～15:15		
食事	施設内にて調理	隣接の公立保育園にて調理	施設内にて調理
保護者援助 活動	<p>援助活動の4つの柱(1. 親子保育/2. 学習会/3. 担任との話し合い/4. 自主活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 療育に参加し子どもと関わるなかで、わが子や周りの子どもの姿から、それぞれの成長を感じ喜び合うことや、子育ての手応えを得ることを大切にする。 子育てを考えるさまざまな視点をテーマにした学習会を実施し、そのなかでわが子理解を深めたり、制度や施設についての知識を得たりして、子育てを考え合う場にする。 個々の子どもの療育についての話や子どもの発達を共に確認し、保護者の理解が得られるように個別懇談やクラス全体での懇談会を実施する。 保護者の主体的な活動を通して交流を深め同じ目的に向かって協力しあったり、得意なことを出し合ったりしながら、お互いが高まり、生活を実りあるものにする。 <p>○その他の活動 ・年間行事の準備や参加 ・父母の会活動として自主的な取り組み(やまびこ園のみ)</p>		
デイリー プログラム	<p>10:00 登園 視診 着替え 水分補給 朝の集まり クラスでのあそび</p> <p>11:30 排泄 手洗い 食事準備 食事(給食) (歯磨き) 着替え 昼寝・休息・あそび(子どもに応じて)</p> <p>14:30 おやつ 帰りの集まり</p> <p>15:15 降園</p>		
定期行事 定期健診	<p>1回/月:身体計測・避難訓練 (誕生会:子どもの誕生日にあわせて行う)</p> <p>2～3回程度/年:発達相談・健康診断・歯科健診・歯科指導</p>		

地域との交流	近隣の保育園・こども園・幼稚園との交流保育		
送迎バス	マイクロバス3台 (①・②・③)	マイクロバス2台 (①・②)	マイクロバス3台 (①・②・③)
送迎学区	① 唐崎 滋賀 中央 長等 ② 膳所 富士見 晴嵐 石山 南郷 ③ 瀬田南 瀬田 瀬田北 膳所 平野	① 堅田 真野 伊香立 小野 木戸 小松 ② 堅田 仰木の里 雄琴 坂本 下阪本	① 瀬田北 瀬田東 瀬田 青山 ② 瀬田北 瀬田 瀬田南 田上 ③ 瀬田南 瀬田
職員体制	園長:1名 代表保育士:1名 児童発達支援管理責任者:1名 保育士:27名 (正規12名、会計年度15名) 発達相談員:1名 言語聴覚士:1名 保健師:1名 看護師:会計年度3名 管理栄養士:1名 調理員:5名(やまびこ園以外の利用者も含む) 運転士:委託3名 医師:1名(びわこ学園から派遣) 理学療法士・作業療法士(びわこ学園から派遣)	所長:1名 代表保育士:1名 児童発達支援管理責任者:1名 保育士:12名 (正規5名、会計年度8名) 発達相談員:1名 看護師:会計年度2名 調理補助:1名 用務員:1名 運転士:委託2名 医師:1名(びわこ学園から派遣) 理学療法士・作業療法士(びわこ学園から派遣)	所長:1名 児童発達支援管理責任者:1名 (代表保育士と兼務) 保育士:15名 (正規6名、会計年度9名) 発達相談員:1名 看護師:会計年度2名 調理員:1名 用務員:2名 運転士:委託3名 医師:1名(びわこ学園から派遣) 理学療法士・作業療法士(びわこ学園から派遣)
	やまびこ相談支援事業所 相談支援専門員2名	わくわく相談支援事業所 相談支援専門員1名	のびのび相談支援事業所 相談支援専門員2名



4 令和6年度在籍児の状況

(1) やまびこ園

クラス別在籍児一覧

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
ぱんだ組					7(1)	2							7(1)	2	9(1)
ぞう組			1(1)		5	2	1						7(1)	2	9(1)
くじら組						4(1)	1			1		1	1	6(1)	7(1)
こあら組				1	2		1	2					3	3	6
きりん組					3		2	2					5	2	7
ぺんぎん組(訪問含)					5(1)	4(3)			1				6(1)	4(3)	10(4)
合計	0	0	1(1)	1	22(2)	12(4)	5	4	1	1	0	1	29(3)	19(4)	48(7)

※数字はR6年度の契約児数、()内は年度途中の入園児数

障害・状態像別一覧

※医療ケア児 4名

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
発達の遅れ					4		1	1					5	1	6
発達の遅れ・コミュニケーションの課題			1		15	7	1						17	7	24
発達の遅れ・コミュニケーション・行動コントロールの課題						1							0	1	1
脳性まひ、筋疾患						1				1			0	2	2
染色体または遺伝子に変化を伴う症候群				1	2	2	1	3				1	3	7	10
その他(先天性疾患)					1	1	2		1				4	1	5
合計	0	0	1	1	22	12	5	4	1	1	0	1	29	19	48

(2) わくわく教室

クラス別在籍児一覧

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
ぺんぎん組					7		1(1)						8(1)	0	8(1)
らっこ組			3	1		4	1	1					4	6	10
くじら組			2	2(1)	3(1)	1							5(1)	3(1)	8(2)
いるか組				1	4	3							4	4	8
合計	0	0	5	4(1)	14(1)	8	2(1)	1	0	0	0	0	21(2)	13(1)	34(3)

※数字はR6年度の契約児数、()内は年度途中の入園児数

障害・状態像別一覧

※医療ケア児 4名

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
発達の遅れ						2							0	2	2
発達の遅れ・コミュニケーションの課題			2	2	10	3	1						13	5	18
発達の遅れ・コミュニケーション・行動コントロールの課題					2								2	0	2
コミュニケーション課題					1	2							1	2	3
脳性まひ・筋疾患				1		1							0	2	2
難聴			1	1	1								2	1	3
その他（先天性疾患）			2				1	1					3	1	4
合計			5	4	14	8	2	1					21	13	34

(3) のびのび教室

クラス別在籍児一覧

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
りんご組（教室）			1 (1)		2	2			1			1	4 (1)	3	7 (1)
ぶどう組（教室）			1 (1)		6	1			1 (1)				8 (2)	1	9 (2)
みかん組（教室）				2	2	1							2	3	5
もも組（ランド）					5	5 (2)							5	5 (2)	10 (2)
めろん組（ランド）					5 (1)	5 (1)							5 (1)	5 (1)	10 (2)
合計			2 (2)	2	20 (1)	14 (3)			2 (1)			1	24 (4)	17 (3)	41 (7)

※数字はR6年度の契約児数、()内は年度途中の入園児数。

障害・状態像別一覧

※医療ケア児 3名

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
発達の遅れ					2	1			1				3	1	4
発達の遅れ・コミュニケーションの課題			2		10	7			1			1	13	8	21
発達の遅れ・コミュニケーションの課題・行動コントロールの課題					1	1							1	1	2
コミュニケーションの課題					4	4							4	4	8
脳性麻痺・筋疾患					3								3	0	3
染色体異常・先天性疾患				2		1							0	3	3
合計			2	2	20	14			2			1	24	17	41

5 令和6年度3療育のまとめと課題 【 共通の取り組み 】

『保育所等訪問支援事業』

目的:集団生活を送る上での様々な課題等について、訪問支援員が一定期間継続して保育所等を訪問し、子どもに応じた支援や相談等を行う。

実績:令和5年度卒園児3歳児1名(私立保育園在籍)

総括:在籍園の保育者と、療育のなかでの関わり方や遊び方について、一緒に考え、育ちを共有してきた。保護者と在籍園が円滑に信頼関係を築けるように、療育での保護者支援で大切にしてきたことを伝え、今後の対応について検討を行ってきた。子どもへの関わりでは、保護者や在籍園のニーズを踏まえて療育のエッセンスを伝えることや、環境設定について一緒に考えることを通し、多面的に子ども理解が深まるよう支援を行った。

訪問後は、保護者に園での様子や援助したこと、担任と話したことなどを伝えることで、保護者の安心につながっていった。

『療育前早期対応親子教室』

目的:① 1、2歳児で療育が必要と判断されたものの、発見や対応のタイミングで療育利用につながらなかった子どもを対象に、子ども達のあそびと保護者の相談の場を保障する。

② 保護者が療育の場や発達支援制度を知り、次の進路選択時に主体的な選択ができるよう支援する。

③ 低年齢児療育前親子教室「ぷちらっこ」(やまびこ園・教室で実施)の子ども達のあそびの保障をしたり、保護者同士のつながりを作ったりする。

実績:5月スタートで月2回(年間18回)午前中に実施した。今年度、ぷちらっこは延べ9名入室。8名が令和7年4月からやまびこに入園した。その他1名は保育園に入園。わくわくこは延べ10名で、8名が令和7年4月からわくわく教室に入園した。その他2名は保育園と在宅となる。のびのびっこは延べ9名のうち5名がのびのび教室、1名がのびのびランド、1名は転居のためぷちらっこへ、1名は保育園に入園される。残る1名は年度途中、のびのび教室に入園した。ぷちらっこは、延べ2名入室。2名とも令和7年4月からやまびこ園に入園した。

総括: 子ども達が、体を使って大人と一緒に遊ぶなかで、“たのしい”“もっとしたい”と気持ちを膨らませること、そして、大人と共感して遊ぶ楽しさを感じて、人への期待を膨らませることを大切に過ごした。保護者に向けては、発達の話や療育の内容について聞く機会や保護者同士の語る場をもった。

ぷちらっこは、5月スタートで月1回(年間10回)午前中に実施した。延べ2組の親子が参加。一人一人の子どもに合わせたあそびを楽しむとともに子育てについて保護者の悩みを聞き、子どもの育ちを一緒に考えた。

母子保健課や各すこやか相談所との連携では、親子の状況や進路について情報共有をした。

『療育前早期対応親子教室』に参加される親子は、子育ての悩みを一人で抱えておられる方も多い。スタッフと話したり、座談会を通して同じ思いの保護者がおられ共感し合ったりすることで、安心される姿もあり、保護者支援としても大きな役割がある。

『療育体制の整備』

令和6年4月から、児童発達支援ガイドラインが改訂され、発達支援、移行支援、家族支援、地域支援を柱に、療育を進めてきた。引き続きの課題としては、①北部の施設問題 ②医療的ケア児の支援(登園条件整備) ③地域支援(併行通園など保護者の就労支援) ④地域支援(学齢期へのつなぎ、学齢期障害児の相談支援体制) がある。

令和6年度は、新規事業として年4回各療育共通で「ふたば」を開催した。各療育によって参加人数が異なり、保護者のニーズに添えているかの課題がある。令和7年度は、保護者学習会や、保護者同士の交流をもつなど、保護者のニーズを捉え内容を検討し運営していくことが必要となる。

令和6年度は保育所等訪問支援事業をより多くの利用につなげていく。地域の保育園、幼稚園、認定こども園に事業内容についてわかりやすく発信し、保護者や園に周知を図ることで、次年度以降も児童発達支援センターとして事業の充実を図っていく。

『療育実践報告・交流会の実施』

年報の報告会として始めた『療育実践報告会』であるが、療育が大切にしていることについて伝えることに加え、保育の状況や情報交換、子どもの育ちの捉えや理解を深める機会として実施している。

保育園、幼稚園、認定こども園では、療育を経過せずに就園する割合は、年々増加している。そのなかで、療育・保育園・認定こども園・幼稚園が同じ視点で子ども理解を深め、同じ思いで適切な支援が行えることを目的とし、子どもの発達支援に携わる仲間として、気軽に子どもの育ちについて語り合えるように、北部・中部・南部の3つのエリアに分かれて実施し、参加園相互の交流の場として、地域でのつながりを深めている。

また、見学会を実施し、子どもと職員との関わりを客観的に見て知ってもらい、物的、人的環境や子どもの願いとは何かを考えるきっかけとなっている。

【やまびこ園】

＜療育見学会＞ 7月30日～8月2日 9時30分～12時15分 13名参加

＜実践報告・交流会＞ 7月31日(水) 14時30分～17時 10名参加

○実践報告

『人と遊ぶのってたのしいな』

～自分のつもりとの違いの中で、ドキドキする気持ちを支えるための信頼関係づくりから学んだこと～

○講話 別所発達相談員より

『療育や保育で大切にしたいこと』～“この人が好き”“自分が好き”を育てる～

○グループ交流

実践報告の後、外部とやまびこ職員が、2グループに分かれ、交流を行った。

事例の中で共感することや、さらに深く聞きたいことなどをグループ交流で意見交換し交流を深めていった。一人一人の子どもに寄り添いながら子どもの願いを探ったり、汲み取ったりすることの難しさや大切さを感じる機会になった。また、民間保育園・幼稚園との貴重な情報交流の場にもなった。

【のびのび教室】

＜療育見学＞7月29日～8月2日 9時30分～12時30分 9名参加

○見学は1日に1クラス2名以内で子ども達の負担にならないように配慮して実施した。9名の参加があり、1日1～2名程

度で子どもたちにとって負担のないように参加してもらえた。

＜実践報告・交流会＞7月29日(月) 14時30分～17時00分 8名参加

○実践報告

『あんしんできるおとなとの関係を築くなかで、人と関わる心地よさや喜びを感じ、人への期待をふくらませる』

○講話 小原発達相談員より

「人に気持ちが向かう土台を育むために～子どもを知ること、発達を知ること」

○グループ交流会

講話の後、3グループに分かれ、地域の園の職員とのびのび教室職員との交流を行った。日ごろの子どもへの関わり方、保育の組み立て方、保護者支援など、共通する話題のなかで、情報交流と共に学び合える良い機会となった。開催時期については、民間園の参加は多いが幼稚園の参加が少ないため、令和7年度開催時期を工夫する。

【わくわく教室】

＜実践報告・交流会＞7月19日(金) 13時45分～16時45分 19名参加

○実践報告

『安心できる保育者との関係のなかで、“いや”“これがしたい”と自分の思いをはっきりさせていったきょうくん』
～“いや”の裏にある児の思いや願いを探る～

○講話 井狩発達相談員より

『“いや”の裏にある思いや願いを探る』～発達の視点から考える～

○グループ交流会

実践報告会の後、グループ交流会を行った。各園でのそれぞれの悩みや課題などを出し合い、共有したり共に考え合ったりすることで、子どもの姿の捉え方や関わり方、子ども一人一人の思いに丁寧に寄り添うことなどを確かめ合う機会となった。課題はそれぞれあるが、近隣の園の職員同士が互いに語り合い、共に学び合うということ自体が子どもを支援していくための大きな一歩となった。令和6年度は、幼稚園から多数参加があった。近年、幼稚園でも支援児が多い中では、実のある実践報告・交流会であった。今後も何を療育として発信していくか、開催の時期や方法なども含めて検討していく。

＜療育見学＞ 11月14日(木) 9時50分～12時40分 4名参加

○療育見学

午前中の療育を見学してもらった後、参加者とわくわく教室の職員で情報交流を行った。参加人数は少なかったが、療育で大切にしていること、また、わくわく教室職員も園の先生たちがどのようなところで悩んでいるかなど、互いに知り合うことができた。

6 進路指導

【共通の取り組み】

大津市の療育教室では、以下の3点を基本に進路指導を実施している。

①子どもの成長・発達と障害、今後の課題を保護者と確かめながら、どのような生活の仕方や文化がわが子に合うのか考える。②次年度に進路ばかりでなく子どもの少し先の将来の見通しを持って考える。③保護者の希望、生活設計、家庭状況、地域特性を考慮しつつ、保護者が納得して主体的に選択していけるようにする。具体的には下記の内容で進路指導をすすめている。

- ・卒園児保護者から就園の実体験を聞く機会を提供する。
…卒園児保護者と語る機会
- ・保育園・認定こども園・幼稚園それぞれの特色や取り組み内容を知らせる。…「就園についての学習会」
- ・適切な進路決定ができるための支援をする。
…発達相談、個別懇談
- ・通園可能範囲の保育園や認定こども園、学区の公立幼稚園を見学し説明を聞く機会を提供する。
…園見学
- ・職員間では、一人一人の子どもとその家庭の状況を確認し支援の方向性を話し合い、整理した進路指導の課題を関係機関に発信する。
…進路委員会
- ・就園先決定後、就園する先の保育園・認定こども園・幼稚園から来園いただき、療育場面での実際の子ども様子を見てもらう機会を設け、具体的な姿をとおして引継ぎを実施する。
…引き継ぎ
- ・卒園後のフォローの体制を案内する。

…卒園後についてのオリエンテーション

＜進路指導年間スケジュール＞

*保護者の意向を踏まえ進路委員会で随時検討する。

実施月	内 容
6月～7月	「卒園児保護者と語る会」「OB交流会」等
6月～7月	就園についての学習会 (幼保支援課・保育幼稚園課の協力)
7月～8月	園見学オリエンテーション
9月～10月	保護者園見学(保育園・認定こども園・幼稚園) 進路に関する個別懇談
10月～11月	「OB交流会」
1月～3月	進路先の園との引き継ぎ
3月	卒園後についてのオリエンテーション

『やまびこ園』

年度年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
保育園(公立)	0	0	8	2	0	0	10
保育園(民間)	0	0	3	0	0	0	3
こども園(民間)	0	0	7	0	0	0	7
こども園(公立)	0	0	0	1	0	0	1
幼稚園(国・公立)			10	1	0	0	11
幼稚園(民間)			3	0	0	0	3
養護学校						1	1
療育継続	0	2	3	5	2	0	12
転出	0	0	0	0	0	0	0
計	0	2	34	9	2	1	48

『わくわく教室』

年度年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
保育園(公立)	0	0	2	0	0	0	2
保育園(民間)	0	2	4	0	0	0	6
こども園(民間)	0	2	5	0	0	0	7
幼稚園(国・公立)			10	1	0	0	11
幼稚園(民間)			1	0	0	0	1
養護学校						0	0
療育継続	0	5	0	1	0	0	6
転出	0	0	0	1	0	0	1
計	0	9	22	3	0	0	34

『のびのび教室』

年度年齢	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
保育園(公立)	0	1	0	0	0	1
保育園(民間)	0	2	0	0	0	2
こども園(民間)	0	12	0	0	0	12
幼稚園(公立)		17	0	0	0	17
幼稚園(民間)		0	0	0	0	0
養護学校					1	1
療育継続	4	2	0	2	0	8
計	4	34	0	2	1	41

「就園についての学習会」については、近年、感染症拡大防止対策等の影響により、1～2クラス単位で4日間に分けて開催し、やまびこ園からわくわく教室及びのびのび教室へオンライン配信を行ってきた。今年度は、5年ぶりに各療育において対面開催が可能となり、1日ずつ計3日間の開催とした。開催にあたっては、保護者の都合に応じて会場（各療育）を選択できるよう案内するとともに、複数年在籍の保護者については自由参加とした。園見学については、市立幼稚園は選択制の公開日に合わせて各家庭が個別に見学を行い、保育園・認定こども園については、見学希望の保護者が一定数まとまって訪園する形で日程調整を行っている。しかし、1家庭あたり6園以上のお見学が必要となる場合も多く、調整は複雑かつ困難な状況である。そのため、複数日に分けて見学の機会を設定した園もあった。療育在籍児は2歳児が大多数を占めており、3～4歳児から地域の保育園・認定こども園（2号認定）、または幼稚園・認定こども園（1号認定）への入所を希望する家庭が多い。これまでは、療育を経た後も、それぞれの子どもや保護者にふさわしい発達支援が保障されることを最優先として就園先を選択できるよう、丁寧な相談を行った上で、保育園・認定こども園（2号認定）と幼稚園との併願は行わないことを原則としてきた。

しかし近年、待機児童の増加等の社会情勢の変化により、こういった従来の原則が守れない状況も増えつつある。そのため、今後は、それぞれの子どもや保護者に寄り添ったより丁寧な進路指導を心がけることと併せ、これまで実施してきた卒園児の移行支援についても、内容や支援の充実が図れるよう努めていく。

7 相談支援

『令和6年度実績』

これまで発達支援の必要な乳幼児のサービス利用に関する支援を、やまびこ相談支援事業所とわくわく相談支援事業所の2か所で担ってきたが、市内3か所の児童発達支援センターに併設される形で、7月に東部地域にも「のびのび相談支援事業所」が開設された。

相談支援専門員を2名増員し、やまびこ・のびのび相談支援事業所は複数配置となり、地域のなかでより身近に支援を受けてもらえる体制が整ってきた。令和6年度は、民間の児童発達支援事業所が新たに複数開所したこともあり、これまで年々増加傾向にあった民間の児童発達支援の利用者が、公立の児童発達支援の利用を大きく上回ってきた。保護者ニーズの高まりと共に、相談支援事業所につながる対象や相談内容にも広がりが出てきている。

年度	R2	R3		R4		R5		R6		
相談支援事業所名		やま びこ	わく わく	やま びこ	わく わく	やま びこ	わく わく	やま びこ	わく わく	のび のび
大津市立3療育	113	79	31	79	30	72	33	46	34	21
外部(民間児童発達)	89	83	16	76	19	70	26	61	41	51
障害福祉サービス	12	4	3	4	3	2	0	1	0	0
保育所等訪問支援	5	3	0	2	0	1	2	1	1	0
計	219	169		50		161		52		72
		219		213		206		257		

表 計画作成児童数の推移 (単位:人 重複あり)

『相談内容の多様化』

これまでも児童発達支援の利用につながる相談以外にも、どこに相談してよいかわからずに連絡してこられるケースはあったが、ここ近年は、支援の狭間にあり相談先がなくて困っている方からの相談が増えてきている。支援制度利用の対象とは判断されていないが、3歳半健診以降、こども発達相談センターを紹介して相談が途切れていたケースで、家での困りごとが続いている方や、就学を前に不安が高まり児童発達支援の利用を希望される方など、保護者は自分の相談したいタイミングで連絡してこられることがある。また、低年齢児で経過観察中になっている方や、令和7年度から障害児保育制度の利用が決まり、家でもできることを求めて児童発達支援を探される方など、わが子にとっての支援の必要性が分かったタイミングで相談してこられることもある。公立の3相談支援事業所では、主に就学前の子どもを支援の対象としているが、実際には就学後へのつなぎの問題があり、子どもの障害の重さや家庭生活の困難さ、保護者自身に支援が必要な場合など、就学後も引き続き伴走支援を必要とするケースであっても受け皿が足りない問題や、学齢期の家庭での問題行動に関する相談など、実際につなぐ先に悩むケースも出てきている。

『園と児童発達支援事業所との連携について』

児童発達支援事業所には制度上、在籍している園と連携していくことが求められており、児童発達支援事業所から園へのアプローチが増えてきている。子どもを受け入れている園がその事業所のことをよく知らずに戸惑われたため、児童発達支援の園訪問の際に同席させていただいたケースが何件かあった。園での子どもの姿を共有した後、話し合いの場を持つなかで、お互いの取り組みや支援の目標、子どもの変化や保護者とやりとりしている内容などを交流した。環境やアプローチの仕方が違うなかで、子どもが違った顔を見せていたり、保護者が心配事を発信されていたりすることもあり、話し合いを通して、子どもの多面的な理解につながったり、支援の方向性が確認できたことは、親子の支援にプラスになったと感じる。園と民間の児童発達支援の並行利用が増えてきたなかで、今後、園と民間の児童発達支援事業所のよりよい関係づくりに向けて、連携の仕方のルールづくりや実践の積み上げが課題になってきている。

1 年度別・年齢別在籍児推移

『やまびこ園』

(単位:人)

年 度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	利用児合計
令和2年度 (2020)	0	8	46	5	1	4	64
令和3年度 (2021)	1	9	42	4	3	1	60
令和4年度 (2022)	0	9	44	3	1	3	60
令和5年度 (2023)	1	11	36	4	1	1	54
令和6年度 (2024)	0	2	34	9	2	1	48

※ 利用児合計数は、年度中の延人数。

『わくわく教室』

(単位:人)

年 度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	利用児合計
令和2年度 (2020)	0	5	24	3	0	0	32
令和3年度 (2021)	0	3	26	1	3	0	33
令和4年度 (2022)	1	2	25	0	0	3	31
令和5年度 (2023)	1	0	30	0	1	0	32
令和6年度 (2024)	0	9	22	3	0	0	34

※ 利用児合計数は、年度中の延人数。

『のびのび教室』

(単位:人)

年 度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	利用児合計
令和2年度 (2020)	0	1	38	0	0	0	39
令和3年度 (2021)	0	4	36	0	0	0	40
令和4年度 (2022)	0	1	37	0	0	0	38
令和5年度 (2023)	0	4	30	3	1	0	38
令和6年度 (2024)	0	4	34	0	2	1	41

※ 利用児合計数は、年度中の延人数

2 入所時年齢別推移

『やまびこ園』

(入園時年齢 * 継続児は4月1日年齢) (単位:人)

年 度		年 齢 (歳)													年度中異動
		計	0.6	1.0	1.6	2.0	2.6	3.0	3.6	4.0	4.6	5.0	5.6	6.0	
令和2年度 (2020)	4月 1日現在前年度継続児数	14						2	5	2		1	2	2	6月入所 1人 7月転出 1人
	4月 組入園児数	44			3	5	20	13	2	1					
	6-10月 組入園児数	6						5	1						
令和3年度 (2021)	4月 1日現在前年度継続児数	13				1	2	2	4		3			1	5月入所 3人 6月入所 1人 7月入所 4人 9月入所 4人 10月入所 3人
	4月 組入園児数	32			1	5	14	12							
	5-10月 組入園児数	15		1		1	10	3							
令和4年度 (2022)	4月 1日現在前年度継続児数	16				1	2	6	2	1	1		3		6月入所 3人 退所2人 7月入所 3人 8月入所 2人 9月入所 1人
	4月 組入園児数	35			3	4	14	14							
	5-10月 組入園児数	9				1	3	3	2						
令和5年度 (2023)	4月 1日現在前年度継続児数	14					3	6	1	3	1				6月入所 1人 7月入所 1人 8月入所 3人 11月入所 2人 12月入所 2人
	4月 組入園児数	26		1	3		9	9	1	2	1				
	5-12月 組入園児数	14				5	4	3	2						
令和6年度 (2024)	4月 1日現在前年度継続児数	22					4	6	4	5	1	1	1		5月入所 3人 8月入所 1人 9月入所 3人
	4月 組入園児数	19				1	11	7							
	5-12月 組入園児数	7					3	3	1						

『わくわく教室』

(入園時年齢 * 継続児は4月1日年齢) (単位:人)

年 度		年 齢 (歳)													年度中異動
		計	0.6	1.0	1.6	2.0	2.6	3.0	3.6	4.0	4.6	5.0	5.6	6.0	
令和2年度 (2020)	4月 1日現在前年度継続児数	7					2	2	3						10月入所2人
	4月 組入園児数	23			1	4	7	11							
	10月 組入園児数	2						2							
令和3年度 (2021)	4月 1日現在前年度継続児数	9				1	4	1			3				6月入所2人 7月入所 1人 11月入所 1人
	4月 組入園児数	20			3	5	12								
	10月 組入園児数	4				4									
令和4年度 (2022)	4月 1日現在前年度継続児数	3											3		5月入所4人 6月入所2人 7月入所2人
	4月 組入園児数	20				1	4	9	4	2					
	10月 組入園児数	8					3	5							
令和5年度 (2023)	4月 1日現在前年度継続児数	0													6月入所1人 7月入所1人 10月入所3人 11月入所 1人
	4月 組入園児数	26					10	12	3		1				
	6~11月 組入園児数	7			1			2	3			1			
令和6年度 (2024)	4月 1日現在前年度継続児数	1						1							7月入所 1人 9月入所 1人 1月入所 1人
	4月 組入園児数	30			4	2	16	7	1						
	7~1月 組入園児数	3				1			1		1				

『のびのび教室』

(入園時年齢 * 継続児は4月1日年齢) (単位:人)

年 度		年 齢 (歳)													年度中異動
		計	0.6	1.0	1.6	2.0	2.6	3.0	3.6	4.0	4.6	5.0	5.6	6.0	
令和2年度 (2020)	4月 1日現在前年度継続児数	1					1								6月入所3人 7月入所 1人 8月入所4人 10月入所3人
	4月 組入園児数	29				1	18	10							
	6-10月 組入園児数	9				3	5	1							
令和3年度 (2021)	4月 1日現在前年度継続児数	0													5月入所 1人 6月入所4人 7月入所2人 9月入所 1人
	4月 組入園児数	30				2	12	16							
	5-10月 組入園児数	10				1	4	4	1						
令和4年度 (2022)	4月 1日現在前年度継続児数	4						4							6月入所3人 8月入所 1人 9月入所 1人 10月入所 1人
	4月 組入園児数	28				1	13	14							
	6-10月 組入園児数	6					2	4							
令和5年度 (2023)	4月 1日現在前年度継続児数	1						1							5月入所 1人 11月入所 1人 6月入所 1人 2月入所 1人 7月入所 1人 6月退所 2人 10月入所 3人 2月退所 1人
	4月 組入園児数	27					13	12		2					
	5-2月 組入園児数	11			3	1	1	3	2			1			
令和6年度 (2024)	4月 1日現在前年度継続児数	6				2	2			1			1		6月入所 1人 7月入所 3人 10月入所 3人
	4月 組入園児数	28				2	13	12	1						
	5-2月 組入園児数	7				1	1	2	2		1				

3 進路状況推移

『やまびこ園』

(単位:人)

年 度	公立 保育所 公立 子ども園	民間 保育所	認定 こども園	公立 幼稚園	私立 幼稚園	特別支援 学校	転 出	その他	継続児	計
令和2年度 (2020)	12	6	12	14	2	4	1	0	13	64
令和3年度 (2021)	13	5	12	6	1	1	3	3	16	60
令和4年度 (2022)	14	12	6	5	1	2	2	2	14	58
令和5年度 (2023)	5	5	7	10	0	1	1	2	23	54
令和6年度 (2024)	11	3	7	11	3	1	0	0	12	48

『わくわく教室』

(単位:人)

年 度	公立 保育所	民間 保育所	認定 こども園	公立 幼稚園	私立 幼稚園	特別支援 学校	転 出	その他	継続児	計
令和2年度 (2020)	4	2	3	13	1	0	0	0	9	32
令和3年度 (2021)	11	1	8	10	0	0	0	0	3	33
令和4年度 (2022)	8	3	6	7	1	3	2	0	1	31
令和5年度 (2023)	8	3	6	7	1	3	2	0	1	31
令和6年度 (2024)	2	6	7	11	1	0	1	0	6	34

『のびのび教室』

(単位:人)

年 度	公立 保育所	民間 保育所	認定 こども園	公立 幼稚園	私立 幼稚園	特別支援 学校	転 出	その他	継続児	計
令和2年度 (2020)	3	10	2	18	2	0	3	1	0	39
令和3年度 (2021)	4	4	12	13	0	0	3	0	4	40
令和4年度 (2022)	2	10	11	13	0	0	1	0	1	38
令和5年度 (2023)	3	4	11	10	0	0	4	0	6	38
令和6年度 (2024)	1	2	12	17	0	1	0	0	8	41